



<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>作物栽培の基本と実践力を身につけさせ、栽培技術の習得とともに、生産と流通、地域性、消費についての理解が深まるよう努めた。</p> <p>実習授業では、物事を思考・判断する能力と、それを実行・実践する技術力を養うことを目標としている。基礎を学び、自ら考え行動して応用力を培うことが、学生の将来につながると考えているからである。そのため、何事にも「なぜ」という疑問を持ち、問題点を探り当てて解決策を実行に移すプロセスに重点を置いている。また、作物を観察する目を磨き、育成の体験や収穫の喜びを通じて農業のすばらしさを伝える方針で指導を進めている。一方で、一部に関心の薄い学生が散見されるため、今後はそうした学生も主体的に興味を持てるような授業の工夫にさらに努めたい。</p> <p>座学においては、現場で活きる知識や技術の定着を図り、論理的思考力が身につくよう工夫している。今後も、実習と座学の相乗効果を高め、全学生が満足と成長を実感できる講義を目指す。</p>																				
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>学生による授業評価においては、「講義が非常に聞きやすく、内容が分かりやすい」との高い評価を得ている。この評価を踏まえ、さらなる教育効果の向上と学生の主体的な学びを引き出すため、以下の取り組みを進めている。</p> <p>講義においては、学生の興味・関心を継続的に惹きつけるため、配布プリントや板書の構成を工夫するとともに、視覚的教材としてプレゼンテーションソフト (PowerPoint 等) を積極的に活用している。また、定期的に小テストを実施することで、学生自身が知識の定着度を再確認できる機会を設けている。</p> <p>園芸実習においては、学生の主体性を引き出すため、各自が興味を持つ作物を中心に班分け・役割分担を行い、より積極的に農作業へ取り組める環境を整備した。さらに、学内の圃場での作業にとどまらず、市場視察や農業試験場への視察を取り入れ、生産から流通に至る多角的な視点を養っている。</p> <p>加えて、実習で扱う栽培品目には、北海道における新顔作物や栽培事例の少ない作物などを取り入れている。これにより、初めて取り組む作物に対する栽培技術の応用力や、将来的に地域特性に合わせた特産品振興を牽引できる実践的な力の育成を図っている。</p>																				
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<p>教科書の内容をより良く理解できるよう、写真や動画、図表などをパワーポイントで映写し授業を進めた。図解や後の復習に必要と思われるものは、必要に応じプリントを配布し使用した。小テストを実施し、知識習得の再確認を行っている。</p>																				
<p>5 学生の指導 (課外活動・厚生補導等)</p> <p>(主要 10 件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>2022 年度～2024 年度</td> <td>果樹研究会顧問</td> </tr> <tr> <td>2022 年度～</td> <td>ドローンサッカー部顧問</td> </tr> <tr> <td>2022 年度～</td> <td>学生広報ぶれたく顧問</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	2022 年度～2024 年度	果樹研究会顧問	2022 年度～	ドローンサッカー部顧問	2022 年度～	学生広報ぶれたく顧問														
2022 年度～2024 年度	果樹研究会顧問																				
2022 年度～	ドローンサッカー部顧問																				
2022 年度～	学生広報ぶれたく顧問																				
<p>6 その他</p> <p>(主要 5 件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> </table>																				
<p><b>研 究 業 績</b></p>																					
<p>1 研究分野・活動</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>北海道における新規作物の導入と安定生産、および地域特産振興を主軸に研究活動を展開する。具体的には、北海道の新顔野菜であるラッカセイやサツマイモ、およびキャベツなどの品目において、気象変動等に強い安定した収穫を目指し、バイオスティミュラント資材やポリマーなどを活用した新たな栽培方法の確立に努める。また、ラッカセイやサツマイモの栽培法および貯蔵法の技術体系を確立し、道内での作付拡大を推進する。さらに、収穫物の付加価値を高め地域の特産振興へとつなげるため、品質向上を目的とした栽培管理技術から一次加工に至るまでの一貫した検討を行い、生産現場で実践可能な技術の開発を目指す。</p>																				
<p>2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む)</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>作物の Ni (ニッケル) 過剰障害対策である。生育阻害の要因を解析し、現場で導入可能な軽減・回避技術の確立を目指す。</p> <p>温暖地作物である里芋の北海道における安定栽培体系の構築である。地域特性に適応した栽培法を見出し、新規特産品としての可能性を探る。</p> <p>環境ストレス耐性を高めるバイオスティミュラントの活用である。対象とする作物や品種ごとの生理的特性に合わせた最適な使用条件・施用体系を明らかにし、持続可能な農業における収量・品質の安定化を目指す。</p>																				

3 研究助成等 (主要 5 件程度)	(1) 文部科学省科学研究費				
	(2) 学内				
	(3) 学外				
4 資格・特許等 (主要 3 件以内)	小型ボイラー取扱				
	普通第 1 種压力容器取扱				
	食品衛生管理者				
著書、学術論文、作品等の名称 (主要 15 件以内)	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約	
露地立茎アスパラガスにおける個体別収量に関する一考察	共	2005 年 2 月	北海道園芸談話会報 第 38 号	露地立茎栽培下でのプラグ苗、大苗定植、 品種別の収量予測	
ペポカボチャ「ストライプペポ」による地域振興	共	2021 年 10 月	北農第 88 巻 4 号	生産・加工の販売促進体制（産学官連携） について、栽培方法の確立、種子の加工、 販売、需要や販路拡大への取組。	
土壌 pH の違いがラッカセイ（ <i>Arachis hypogaea</i> L.）の生育・収量 及びカルシウム含有率に及ぼす影響	共	2023 年 3 月	北海道拓殖大学北海道 短期大学紀要 第 3 号	土壌 pH を pH3.1～6.8 で栽培し、生育、 莢数、子実影響をして影響を調査した。 pH3 程度では枯死したが、6.0～6.8 の範 囲での影響は判然としなかった。カルシ ウム含有率は子実よりも莢（殻）で明らか に高かった。	
北海道におけるラッカセイ（ <i>Arachis hypogaea</i> L.） の播種時期、生育・収量に及ぼす影響	共	2023 年 3 月	北海道拓殖大学北海道 短期大学紀要 第 3 号	5 月中旬から 6 月上旬の間に播種期を設 け生育・収量に及ぼす影響を検討した。、 真夏日の増加と降水量の減少が総莢数と 正莢内の正粒割合の低下に影響している 可能性を指摘した。	
キャベツの S-メチルメチオニンスルホニ ウム含有量に対する雪中貯蔵の影響	共	2023 年 8 月	公益社団法人 日本 食品化学工学会 第 70 回記念大会	雪中貯蔵において、根が切られた状態の 雪中キャベツでは、その栄養成分が緩や かに減少すると想定されたが、アミノ酸 代謝と GSL 生成に関して様々な環境要因 に対する代謝的応答が存在する可能性 が示唆された	
2023 年気象がラッカセイの発芽および子 実の充実におよぼした影響の一考察	共	2023 年 12 月	日本育種学会・日本作 物学会 北海道談話 会会報		
さつまいも活着率に及ぼす苗質・土壌水 分・マルチ色の影響についての一考察	共	2024 年 3 月	北海道園芸談話会報 第 57 号	定植時の土壌水分やマルチに接したとこ ろから葉や茎が焼けて枯れる症状を再現 し、安定収穫に向け調査した。	
キャベツのグルコシノレートと抗菌活性 に対する雪中貯蔵の影響	共	2024 年 5 月	第 78 回日本栄養・食 糧学会大会	雪中貯蔵したキャベツにおいて、 SMM や遊離アミノ酸含有量が単純に漸減 するのではなく、有意な増加が認めら れるなど、アミノ酸代謝が制御されてい ること、また含硫アミノ酸誘導体である グルコシノレートの代謝にも関与するこ とが示唆された	
食用種子向けペポカボチャの薄皮除去法 の改良と品種格差	共	2024 年 7 月	北農第 91 巻 第 3 号	ペポカボチャの種子における薄皮除去法 について、クエン酸の濃度や処理温度の 違いによる効果を調査し、最も適した条 件を検討した。その結果、処理時間や除皮 の効率は品種によっても大きく異なるこ とが明らかとなった。	
道内 7 地域におけるサツマイモ 5 品種の 栽培が収量・乾物率に及ぼす影響	共	2026 年 3 月	北海道園芸談話会報 第 59 号	北海道内 7 地域でのサツマイモ 5 品種の 栽培試験の結果、高収量かつ形状が安定 した「ゆきこまち」と、形状安定性に優れ 青果に向く「きみまるこ」の 2 品種が有望 であった。	
研究業績（過去 3 力年分）				国際的活動 の有無	社会的 活動の 有無
著作数	論文数	学会等 発表数	その他		
0	6	0	0		
				無	無

学 内 運 営 業 績		
1 役職、各種委員会等  (主要 10 件程度)	2022 年度	入試・広報委員会
	2022 年度	学生、地域国際交流委員会
	2023 年度～2025 年度	広報委員会
	2024 年度	学生募集 PT
学 外 活 動 業 績		
1 本学以外の機関（公的機関・民間団体等）を通じた活動  (主要 10 件程度)	2018 年 8 月	土づくり現地研修会（北海道農業協同組合中央会）講師
	2023 年 4 月～	和寒町農業活性化センター運営協議会アドバイザー
	2023 年 4 月	深川市市民講座講師
	2024 年 2 月	深川市新規就農者集中講座講師
	2024 年 4 月～	北海道ラッカセイ懇話会幹事
	2025 年度～	北海道サツマイモ懇話会幹事
	2025 年 11 月	空知管内高等学校農業教育研究会講師
	2026 年 2 月	深川市新規就農者集中講座講師
	2026 年 3 月	上川北部市町村農務課長会議講師
2 学会・学術団体等の活動  (主要 10 件程度)	2021 年～日本土壤肥料学会	
	2021 年～北海道園芸研究談話会	
	2021 年～公益財団法人北農会	
	2022 年～日本作物学会北海道懇話会	
	2022 年～北海道養液栽培研究会	
	2022 年～北海道さつまいも懇話会	